

平成 18 年度海岸工学委員会（第 1 回委員会）議事録（案）

日 時：平成 18 年 6 月 21 日（水）14：00～16：20

場 所：土木学会 2 階講堂

出席者：喜岡委員長，佐藤幹事長

荒木，池谷，今村，上野，内村（代理：池田），大平，大山，岡安，岸田，
黒木，五明（代理：青野），島田，鈴木，清野，武若，丹治，畑田，半沢，
古川（代理：日向），前野，間瀬，松見，水谷，山本，渡部 以上委員
泉宮，磯部（代理：鯉渕），栗山，後藤，小林，榊山，重松，清水，高木，
中野（代理：小川），中山，橋本，福濱，藤原，村上 以上委員兼幹事
熊谷（事務局） 敬称略

議事

1．前回議事録の確認（佐藤幹事長，資料 No.1-1，1-2）

- ・ 前回委員会および幹事会の議事録が提示され，確認された．

No.1-1 平成 17 年度海岸工学委員会（第 2 回委員会）議事録（案）

No.1-2 平成 17 年度海岸工学委員会（第 2 回幹事会）議事録（案）

2．報告事項

- ・ 福濱委員より，内規中の存続期間や委員会の運営（事業計画など）に関する項を追加・修正した旨，報告があった．
- ・ 佐藤幹事長より，土木学会の委員会評価において海岸工学委員会は A 評価を受けたが，A 評価を受ける委員会が増えたため，予算が約 1 割減となった旨，報告があった．
- ・ 佐藤幹事長より，3 名の海岸工学委員会員の交代が報告された（国総研：栗城委員→大平委員，旧開発土研（現土研）：窪内委員→山本委員，関西地区：出口委員（大阪大学）→荒木委員（大阪大学））．
- ・ 佐藤幹事長より，村上委員を海岸工学講演会開催担当の幹事として追加することが報告された（委員長指名幹事として）．

3．海岸工学論文集第 53 巻（第 53 回海岸工学講演会）応募論文審査について（佐藤幹事長）

- ・ 投稿論文数は 418 編であり，第 1 段審査は 5 名の査読者（各 6 点）により行われ，18 点以上の 294 編を採択とした．これは 3 日間，5 会場での講演時間にちょうど見合う数である．
- ・ 第 1 段審査で採択された 294 編のうち，第 2 段審査において 2 編が辞退，1 編が既発

表により D 判定となったため、現在のところ 291 編が掲載予定である。

- ・第 1 段審査における点数分布、および分野別の採択率の推移についても説明があった。
「その他」の分野の採択率がやや低い、問題ないとの見解が示された。
- ・間瀬委員より、2007 年度からの海岸工学論文集の著者およびタイトルの変更手続き（案）が示され（資料 No.2）、承認された。承認された手続きは「第 2 段審査論文締切りまでに、その理由と第 1 段審査論文（概要論文）時の著者全員の自筆署名が入った文書を、海岸工学論文編集小委員会に提出する。結果は小委員会で協議の上、論文登録者にメールにて連絡する」である。

4. 第 53 回海岸工学講演会の準備状況について（小川委員代理、資料 No.3）

- ・各地から阿南市へのアクセス、および徳島市から阿南市へのアクセスについて説明があった。
- ・見学会は 3 コースを設定する予定である。
- ・最終日の最終セッション終了後に、海岸工学論文賞の表彰式が行われる。
- ・予算計画について説明があり、委員会からの支援必要額について了承された。

5. 第 54 回、第 55 回海岸工学講演会（会場など）について

- ・村上委員より、第 54 回講演会は、5 会場を確保するために会場を宮崎観光ホテルに変更した旨、報告があった。
- ・第 55 回講演会については、北陸を 1 つの候補として調整を進めることを確認した。

6. Coastal Engineering Journal について（資料 No.4）

- ・柴山委員欠席のため、岡安委員より Vol. 48, No. 2 の Special Issue 「Indian Ocean Tsunami」が発刊されたことが報告された。
- ・CEJ Award 2005 の候補として「Lagrangian Particle Method for Simulation of Wave Overtopping on a Vertical Seawall, by H. Gotoh, H. Ikari, T. Memita and T. Sakai」が推薦されたところ異論はなく、CEJ Award 2005 の受賞論文に決定した。
- ・佐藤幹事長より、委員会の負担額を減らすためにも、国内での購読者数拡大に向けての協力要請があった。

7. 研究小委員会、WG などの活動状況について

（1）広報小委員会（岡安小委員長、資料 No.5-1）

- ・平成 18 年度土木学会重点研究課題に申請し、採択された旨、報告があった。研究費は 70 万円である。
- ・海岸工学委員会 web ページから、沿岸環境関連学会連絡協議会（沿環連）web ページへのリンクを作成することが了承された。

- ・ web ページリンク規約の変更の提案があり，承認された．新しいリンク規約は「リンクの作成は，広報小委員会が適当と判断したものについて，幹事長の承認により決定する」である．
- ・ 民間団体が既刊の海岸工学論文集（海岸工学講演会講演集，海岸工学講演会論文集を含む）の全てについてスキャンされた pdf ファイルを保管しており，このうちの土木学会絶版分をオンライン公開することの適否について議論した．その結果，まず著作権等の権利関係を整理，確認することとなった．

（２）津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会（今村小委員長，資料 No.5-2）

- ・ 17 年度の活動概要および 18 年度の活動計画が報告された．
- ・ スマトラ津波の未調査地域を本年 7 月に調査する予定である．

（３）沿岸域研究連携推進小委員会（上野委員，資料 No.5-3）

- ・ 17 年度の活動概要および今後の活動計画が報告された．

8．第 42 回（2006 年）及び第 43 回（2007 年）水工学に関する夏期研修会について

- ・ 小林委員より，第 42 回夏期研修会の概要が資料 No.6 に基づいて説明された．
- ・ 小林委員および前野委員より，来年度以降は研修会テキストの CD-ROM 化を検討していることが報告され，メリットおよびデメリットを整理して検討していくこととした．
- ・ 橋本委員より，第 43 回夏期研修会のテーマは未定であるが，九州大学の新キャンパスでの開催を検討しているとの報告があった．

9．業界案内欄掲載依頼について（清水委員，資料 No.7）

- ・ 業界案内掲載会社数は，近年急激に減少傾向にある．
- ・ 第 53 巻の業界案内募集は例年通りに行う．

10．その他

- ・ 大山委員より，7 月 27 日に東京大学生産技術研究所において開催される第 34 回海洋工学パネルへの参加の呼びかけがあった（資料 No.8）．
- ・ 泉宮委員より，海岸工学論文賞の選考方法が説明された．第 1 段審査の 30 点および第 2 段審査の 60 点の計 90 点で採点された論文の上位 15 編以内を候補とし，編集小委員会がそれらの論文を精査して 3 編を選ぶ．
- ・ 間瀬委員より，来年度より海岸工学論文集（第 54 巻）のフォーマットが変更になるので，今年度の第 53 回海岸工学講演会（阿南市）においてアナウンスを行う予定である旨，報告があった．変更箇所は論文著者の英語標記と英文アブストラクトの追加である．

- ・ 橋本委員および後藤委員より，土木学会論文賞の選考方法が変更になる旨，報告があった．総合題目は廃止され，土木学会論文賞は単一論文の著者全員に与えられる．土木学会論文奨励賞についても単一論文の筆頭著者に与えられる．なお，この変更の実施には1年間の猶予期間が設けられている．また，このような論文賞の選考方法の変更に伴って，水工学関連の分野で長編論文が執筆し易い環境を整備するため，論文集編集委員会 B 部門（旧，第2部門）編集小委員会から，海岸工学委員長・水工学委員長宛に，編集方針に関する確認が行われた．これによると，海岸工学論文集や水工学論文集に掲載された論文を数編取りまとめて一連の研究の全体像を明確にする再構成が行われている場合には新規投稿と判断することとなっている．
- ・ 清野委員より，地方公共団体の試験場等が実施している沿岸環境モニタリングのデータの有用性を立証するため，これらのデータを利用した論文，また得られた知見などの報告が要請された．
- ・ 佐藤幹事長より，APAC2007 が南京で，Coastal Dynamics 2009 が東京で開催される予定である旨，報告があった．APAC2009 はオーストラリアでの開催が検討されているが，決定はしていないとのこと．また，カトリナ災害討論会が6月9日に開催された旨，報告があった．

（議事録作成 荒木）